
終末期医療

月 山 淑 准教授*
栗 山 俊 之 講師*

3 年次前期・必修

1 単位・15 時間

【概要・目標】

終末期の患者とその家族に対するケアの必要性と特殊性を理解する。終末期には救命を目的とした医療ではなく、患者・家族の QOL(Quality of life)の向上をはかる医療を提供するべきである。「緩和ケアとは生命にかかわる疾患に直面している患者と家族の痛みやその他の身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな問題を予防し、評価し治療することで生活の質を改善する」という WHO（世界保健機構）の定義に基づいて緩和ケアを理解する。また終末期に出現する諸症状を理解し、正しい評価を行い、治療の計画・実施を行うための方法論を学ぶ。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 終末期医療／緩和医療の概説および歴史
 - 2) 末期患者特にがん患者の持っている Total Pain（全人的苦痛）について
 - 3) 終末期患者に出現する症状
 - 4) 癌性疼痛、適正な医療用麻薬の使用
 - 5) 終末期医療／緩和医療における患者・家族の心理とそれに対する援助
 - 6) 終末期における療養場所
 - 7) 死別に伴う家族の悲嘆等に対するケア
 - 8) 死生学
 - 9) 終末期の倫理と医学的決断過程(厚生労働省終末期ガイドラインについて)
 - 10) チーム医療の形成と重要性を認識する
-

【評価】

筆記試験

【教科書】

特にありません

【推薦参考図書】

Kim K. Kuebler, Patricia H.Berry, Debra E.Heidrich 著 鳥羽研二監訳「エンドオブライフ・ケア 終末期の臨床指針」医学書院 2004

世界保健機関編 武田文和訳 「がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケアーがん患者の生命へのよき支援のために一」金原出版株式会社 1993

世界保健機関編 武田文和訳 「がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法—第2版」金原出版株式会社 1996

柏木哲夫 今中孝信監修 「死をみとる1週間」 医学書院 2002

【その他】

メールアドレス totoro@wakayama-med.ac.jp